

団体名	We can 子育てサークル
説明文	<p>「We can 子育てプラスワン」は、大学近隣の親子を大学に招き、豊橋創造大学短期大学部 幼児教育・保育科の学生たちが、その親子と触れ合い、一緒に活動することによって、子育てを行っている方々が精神的なストレスや悩みを少しでも軽減できるよう、また有意義な子育てとなるような、子育てのプラス支援をすることを目的とした。さらに地域（近隣）の親子と学生の触れ合いにより、子育て中の保護者の支援を行うと共に、学生が保護者の子育てを観察し、保護者の気持ちに少しでも近づくことから、保育者の必要性を実感できることも目的とした。特に、本学が所在する豊橋市牛川地区は、子育て世代の家庭が増加している地域で、地域住民との意見交換会などにおいても、本学学生団体等に対して、子育てに関する知識や技術に関する学びの場や交流の場を求める声も寄せられており、今回のこの分野における活動は、地域貢献の一つとなったと考えている。</p> <p>第一回目 9月28日の内容は、「手遊び」「身体遊び」学生の演奏による子どものうたの「リズム遊び」や、学生たちが自作した制作物によって、子どもがイメージを膨らませていくような「制作遊び」を実践した。第二回目 12月21日は、「音の出るおもちゃ作り」を学生と親子で、又は子どもと学生で触れ合いながら制作し、その制作物を用いて、音と光と動きの創作表現の中に取り入れる活動を行った。日常とは違った星の世界という空間を、学生と親子で創り上げ、クリスマス時期という季節感を強調した活動であった。夜空を布と光で描き、音を感じながら身体を動かすなどの取り組みから、非日常的な体験としての活動成果が観察できた。さらにそこでの環境は、子ども自身の意識が高くなっていることが感じられ、それは自分の作った楽器で演奏する姿や、自分の楽器を大事に扱っている子どもの動向を母親が発見する姿からもみられた。</p> <p>このような親子での参加は、学生にとっても、その親子の日常の関わり方を間近で観察することができ、また、母親側からは保育園という場所ではなく、子どもたちが、学生との関わりを通して、自らコミュニケーションを開花していく様子について余裕を持って観察している姿がうかがえた。さらに母親たちは保育者として学ぶべきことについて着眼する様子があり、保育者への理解・興味についての意見が多々挙げられたことについても今回の成果の一つとなったと考えている。</p> <p>今後については、今回参加人数が少なかったことが大きな課題であり、時期的なものや行事と重ならないなどの事前調査が欠けていた。さらに母親たちの子育ての悩みについて、事前アンケートの準備を怠っていたため、それらのデータ収集ができていない。今後は現役子育て中の母親の悩みについて対応できるシステムと環境も整え、子どもの成長と母親の成長の両者を目指して地域の子育てに役立つ支援を行っていきたいと考えている。</p>



1 : 活動の様子



2 : 活動の様子